

スーパーマーケット販売統計調査資料

2016年1月実績 速報版

12月実績 確報版

(2016年2月23日公表)

調査資料概要

【パネル275社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2015年4月実績よりパネル対象企業変更(285社→275社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2016年2月23日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2016年1月実績 速報版 (パネル275)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	85,337,750	100.0%	104.1%	102.2%
食品合計	75,912,330	89.0%	104.8%	102.7%
生鮮3部門合計	29,373,418	34.4%	103.6%	101.5%
青果	11,196,024	13.1%	101.7%	99.6%
水産	8,151,025	9.6%	103.2%	100.8%
畜産	10,026,368	11.7%	106.2%	104.1%
惣菜	8,234,425	9.6%	105.1%	102.3%
日配	16,264,479	19.1%	105.8%	103.8%
一般食品	22,040,008	25.8%	105.5%	103.8%
非食品	6,892,393	8.1%	100.4%	99.5%
その他	2,533,072	3.0%	95.2%	94.5%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,349,440	49	104.2%	102.5%
関東地方	30,409,089	70	105.1%	102.7%
中部地方	10,004,487	58	102.8%	101.9%
近畿地方	18,170,204	34	102.0%	100.6%
中国・四国地方	8,308,075	36	106.5%	102.7%
九州・沖縄地方	5,096,455	28	105.0%	105.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	872,322	57	99.8%	100.6%
4~10店舗	3,514,463	67	102.9%	101.8%
11~25店舗	9,787,485	64	102.0%	101.3%
26~50店舗	15,034,705	45	104.3%	102.2%
51店舗以上	56,128,775	42	104.5%	102.4%

集計企業数 (社)	275	既存店総売上高 (万円)	82,750,538
総店舗数 (店舗)	7,473	店舗平均月商 (万円)	11,419
総売場面積 (㎡)	12,737,628	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2016年2月23日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2015年12月実績 確報版 (パネル275)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	100,779,264	100.0%	102.5%	100.5%
食品合計	89,186,864	88.5%	103.2%	101.0%
生鮮3部門合計	33,968,172	33.7%	102.2%	99.9%
青果	12,342,705	12.2%	102.3%	100.1%
水産	10,210,670	10.1%	102.4%	100.2%
畜産	11,414,798	11.3%	101.9%	99.5%
惣菜	9,718,665	9.6%	105.9%	103.1%
日配	18,478,586	18.3%	103.6%	101.4%
一般食品	27,021,441	26.8%	103.2%	101.3%
非食品	8,212,213	8.1%	97.5%	96.4%
その他	3,380,232	3.4%	99.1%	98.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	16,573,522	49	103.0%	101.8%
関東地方	35,753,865	70	102.8%	100.3%
中部地方	12,073,194	58	101.7%	99.9%
近畿地方	19,952,118	34	101.8%	100.2%
中国・四国地方	10,185,775	36	103.7%	100.0%
九州・沖縄地方	6,240,791	28	101.3%	101.3%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	1,127,669	57	98.6%	99.7%
4~10店舗	4,393,624	67	100.9%	100.0%
11~25店舗	11,972,042	64	100.6%	100.1%
26~50店舗	19,091,970	45	102.1%	100.3%
51店舗以上	64,193,958	42	103.1%	100.7%

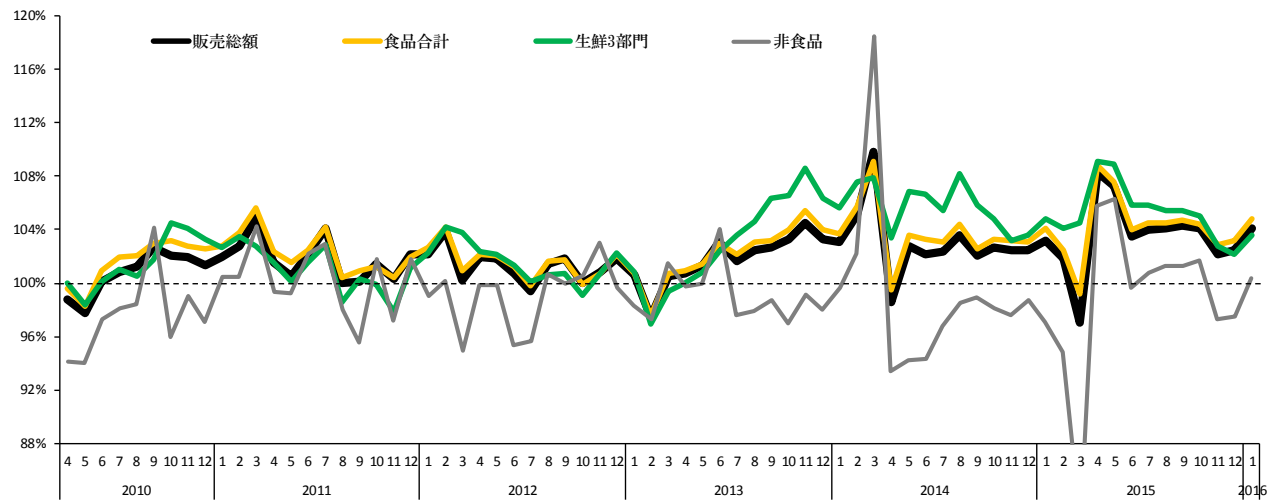
集計企業数 (社)	275	既存店総売上高 (万円)	97,583,547
総店舗数 (店舗)	7,481	店舗平均月商 (万円)	13,471
総売場面積 (㎡)	12,741,472	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.9

※売上高は税抜金額

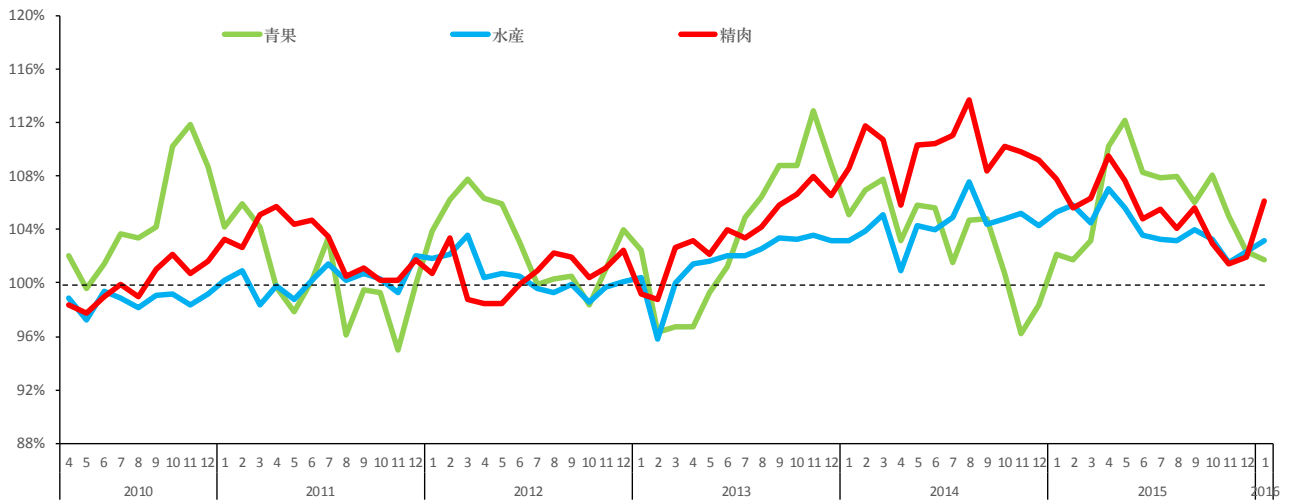
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2016年1月(全店ベース対前年同月比)

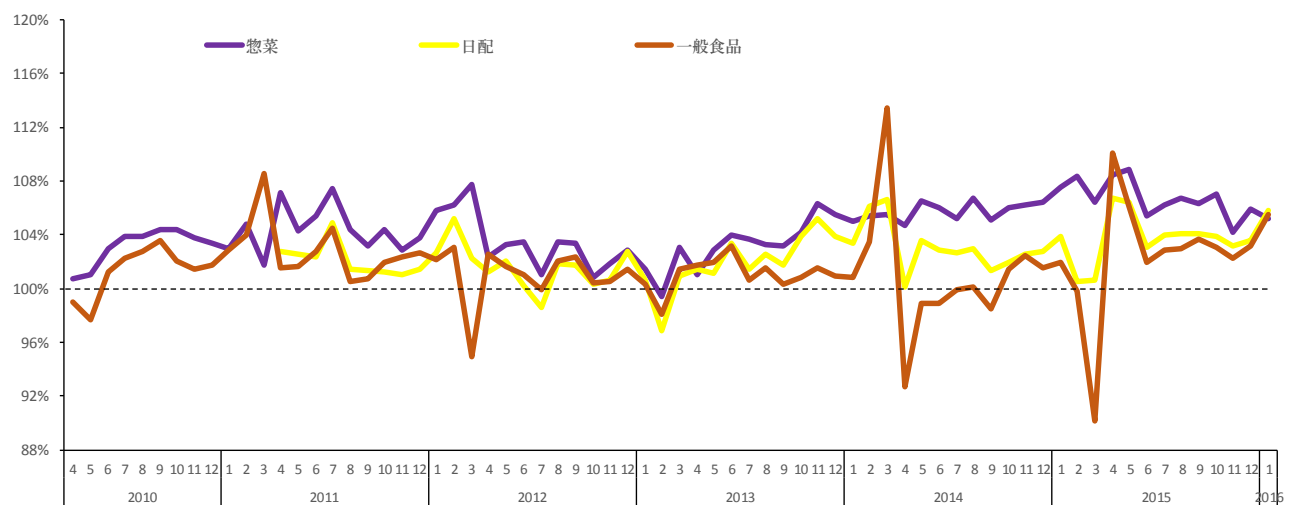
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2015年12月までは確報版による前年同月比、2016年1月は速報版による前年同月比
 ※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」、「非食品」に「その他」を含む

2016年1月エリア別気候状況

1. 平均気温：東・西日本と沖縄・奄美で高かった

気温は、東・西日本と沖縄・奄美では月の前半は平年を大幅に上回った時期があった一方、後半は平年を大幅に下回る時期があった。月平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で高く、北日本で平年並となった。

2015年1月との比較： 上旬は前年に比べかなり気温が高く、中旬以降、特に下旬では低い気温となった地域が多かった。

	平年との比較(°C)						今年と前年との差(°C)		
	2016年1月			2015年1月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	0.9	-0.7	0.5	0.5	1.8	3.0	0.4	-2.5	-2.5
東北地方	2.2	-0.1	0.4	-0.2	1.3	1.3	2.4	-1.4	-0.9
関東甲信地方	2.8	0.2	-0.5	-0.5	0.6	1.0	3.3	-0.4	-1.5
北陸地方	2.8	-0.3	-0.1	-1.2	0.2	1.4	4.0	-0.5	-1.5
東海地方	2.7	0.4	-0.1	-0.8	0.4	1.4	3.5	0.0	-1.5
近畿地方	2.5	0.2	0.1	-0.9	0.4	1.5	3.4	-0.2	-1.4
中国地方	2.2	-0.5	-0.2	-0.5	0.9	1.7	2.7	-1.4	-1.9
四国地方	2.2	-0.1	0.3	-0.5	0.7	1.7	2.7	-0.8	-1.4
九州北部	2.1	-0.7	-0.3	-0.3	1.2	2.1	2.4	-1.9	-2.4
九州南部・奄美地方	2.1	-0.3	0.0	-0.5	0.9	1.6	2.6	-1.2	-1.6

平年差



前年差



2. 日照時間：東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美では日照時間がかなり少なかった

東日本太平洋側で多かった。東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美ではかなり少なく、北日本で少なかった。酒田(山形県)、新潟(新潟県)、人吉(熊本県)で1月の日照時間の少ない方からの1位の値を更新した。

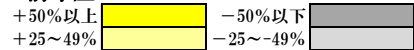
2015年1月との比較： 九州地方では前年に比べ日照時間がかなり少なく、近畿地方ではやや多い日照時間となった

	日照時間 平年比(%)						今年と前年との差(%)		
	2016年1月			2015年1月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	63	86	107	102	91	93	-39	-5	14
東北地方	80	85	90	75	97	97	5	-12	-7
関東甲信地方	121	97	98	112	117	75	9	-20	23
北陸地方	100	44	89	62	83	78	38	-39	11
東海地方	116	102	101	107	115	77	9	-13	24
近畿地方	120	109	99	90	80	70	30	29	29
中国地方	117	94	58	102	92	60	15	2	-2
四国地方	92	89	61	106	116	84	-14	-27	-23
九州北部	67	79	48	123	132	77	-56	-53	-29
九州南部・奄美地方	85	78	57	115	132	96	-30	-54	-39

平年差



前年差



3. 降水量：ほぼ全国的に降水量が多く、西日本ではかなり多かった

沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側、東・西日本で多かった。石垣島、宮古島(以上、沖縄県)など5地点では1月の降水量の多い方からの1位の値を更新した。北日本日本海側では平年並だった。

2015年1月との比較： 上旬は前年に比べ降水量が少なく、中旬は東日本でやや多く、西日本で少なく、下旬は東日本で少ない降水量となった

	降水量 平年比(%)						今年と前年との差(%)		
	2016年1月			2015年1月(前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	63	165	66	93	105	87	-30	60	-21
東北地方	34	326	81	49	88	121	-15	238	-40
関東甲信地方	1	315	145	36	167	215	-35	148	-70
北陸地方	78	179	126	127	91	70	-49	88	56
東海地方	1	128	200	112	170	309	-111	-42	-109
近畿地方	6	91	249	119	193	264	-113	-102	-15
中国地方	9	152	232	94	162	226	-85	-10	6
四国地方	15	109	276	50	228	241	-35	-119	35
九州北部	37	135	265	66	135	225	-29	0	40
九州南部・奄美地方	123	160	228	35	158	217	88	2	11

平年差



前年差



気象庁ホームページ「報道発表資料「1月の気候」を参照
 平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均
 スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2016年2月調査結果（1月実績）
（2016年2月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

2月調査（1月実績）結果概況

景気判断DIは現状判断、見通し判断ともに改善を示す

1月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+2.1の48.2、見通し判断は前月から+1.2の45.2となり、共に前月からや小幅に改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DIが3.2（前月比+5.2）、収益DI（前月比+7.6）と共に大幅な上昇をみせている。前月、マイナスまで低下した客単価DIが7.2（前月比+8.8）とプラスを回復したことが経営環境を好転させている。来客数DIは横ばいの-3.2であるが、生鮮品・食品の両仕入原価DIがゆるやかな下降傾向をみせており、販売価格DI 5.8（前月比-2.0）は下押しされつつある。

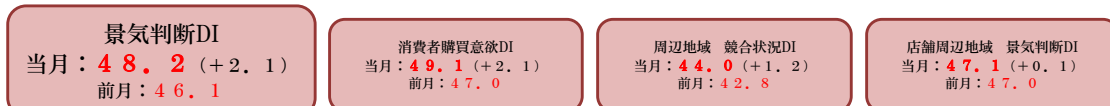
カテゴリー動向結果は、中旬以降の気温低下による冬物需要の増加に加え、日曜日が一日多い曜日まわり、寒波予報による買いだめ需要なども加わり、畜産DIと日配DIが二桁のプラス、一般食品と非食品でも前月に比べ大きく上昇する結果となった。一方で相場が落ち着きをみせてきた青果DIは-6.1と低迷した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、景気判断DIや消費者購買意欲DIが改善し、一旦下げ止まりとなった。しかし、周辺地域景気判断DIは、現状判断が横ばい、見通し判断はわずかなマイナスと弱含みな動きとなった。そのため、2015年5月をピークとした下降トレンドに変化はみられていない。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

消費の低迷が懸念されている経済情勢のなかでも、様々な追い風を受け、総じて底堅い動きとなった。一方で、仕入原価の落ち着きから販売価格が徐々に低下傾向をみせるなど、これまでの堅調な販売動向を支えてきた構造に変化の兆しがみられている。当月は大きく上昇した客単価ではあるが、次月以降の推移を注視していく必要がある。

景況感調査

現状判断

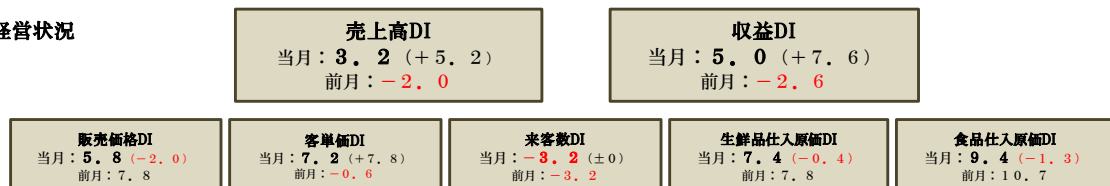


見通し判断



経営動向調査

経営状況



カテゴリー動向



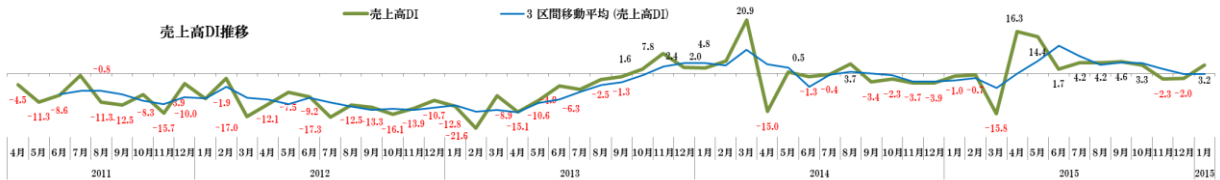
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

2月調査（1月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

3ヵ月ぶりにプラス圏に回復

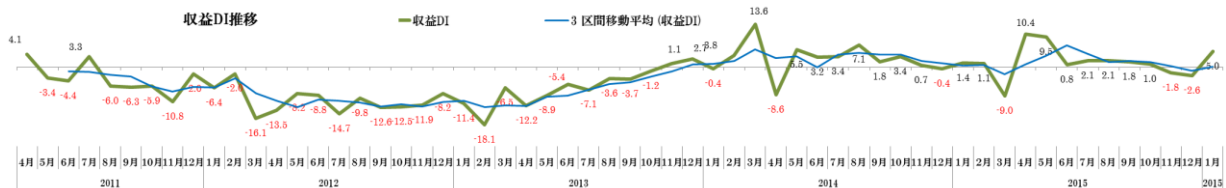
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	5.0	27.9	39.6	25.2	2.3	-2.0
売上高（当月）	4.2	19.7	38.5	34.3	3.3	3.2



2. 収益DI

3ヵ月ぶりにプラス圏に回復

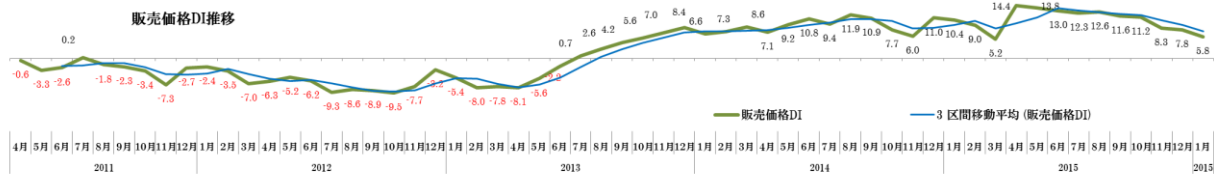
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	4.2	29.4	41.1	22.9	2.3	-2.6
収益（当月）	4.3	18.1	37.6	33.3	6.7	5.0



3. 販売価格DI

プラス圏で推移もゆるやかに下降傾向

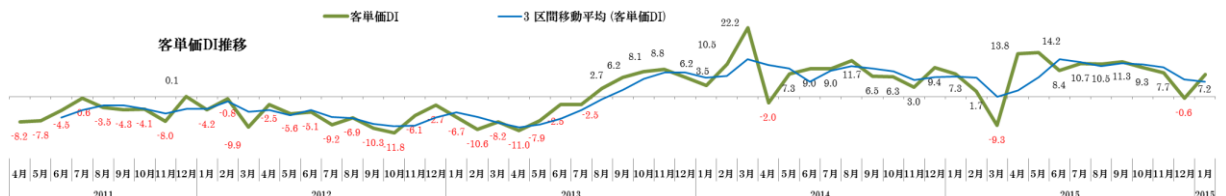
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	9.1	51.1	39.3	0.5	7.8
販売価格（当月）	0.5	9.5	56.4	33.6	0.0	5.8



4. 客単価DI

再びプラス圏まで回復

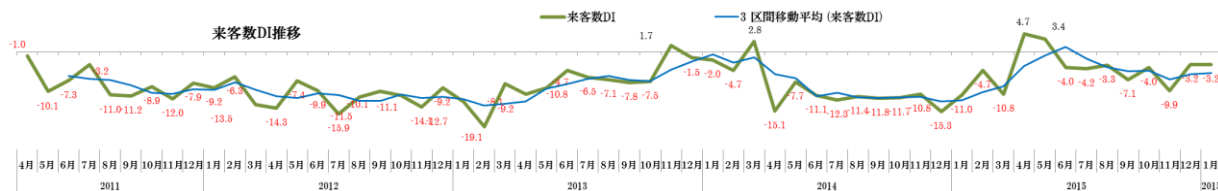
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.9	28.5	42.5	28.1	0.0	-0.6
客単価（当月）	0.5	13.3	45.0	39.3	1.9	7.2



5. 来客数 DI

8か月連続でマイナスを記録も横ばい推移

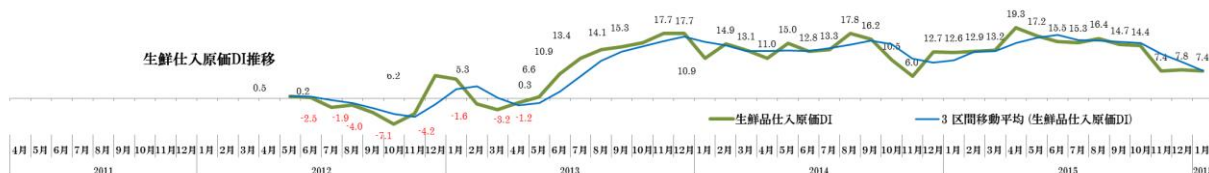
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.5	33.3	34.2	26.1	1.8	-3.2
来客数 (当月)	4.2	31.6	39.2	22.6	2.4	-3.2



6. 生鮮仕入原価 DI

2014年11月以来の一桁水準まで低下後、横ばい推移

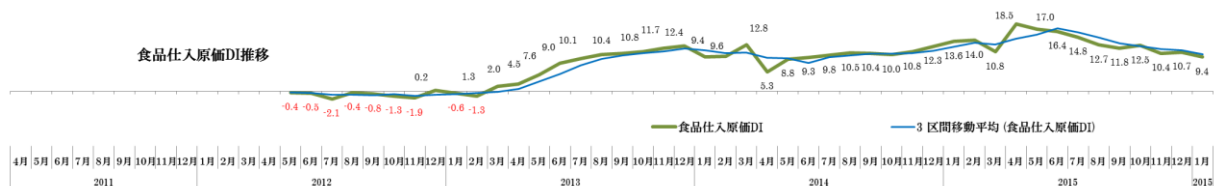
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.9	13.0	43.1	40.3	2.8	7.8
生鮮仕入原価 (当月)	1.0	12.4	45.9	37.3	3.3	7.4



7. 食品仕入原価 DI

ゆるやかに下降を続け、2014年7月以来の一桁水準まで低下

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.9	5.5	46.3	44.5	2.8	10.7
食品仕入原価 (当月)	0.5	5.2	52.9	39.0	2.4	9.4

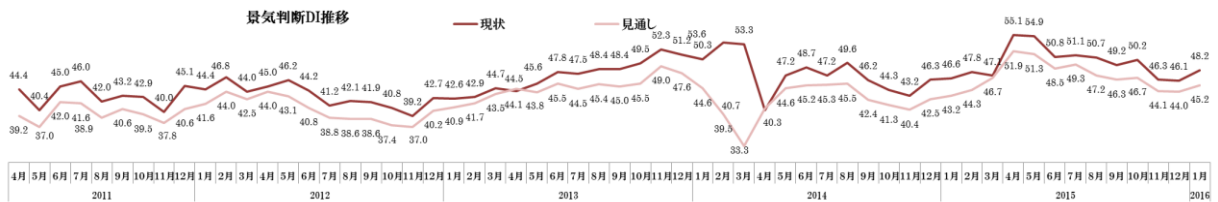


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通し判断共にやや改善

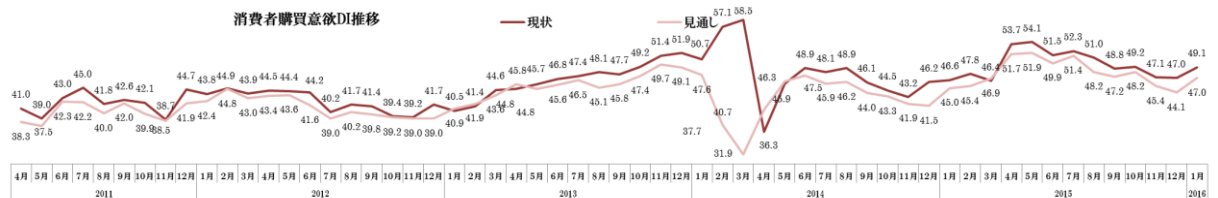
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	2.3	21.6	66.7	8.6	0.9	46.1
【現状】景気判断 (当月)	2.4	14.6	71.2	11.3	0.5	48.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	3.2	23.9	67.1	5.4	0.5	44.0
【見通し】景気判断 (当月)	2.4	23.3	65.2	9.0	0.0	45.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断共にやや改善

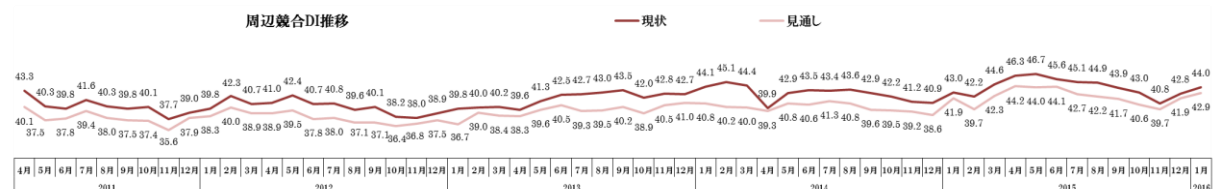
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.4	19.8	69.4	8.6	0.9	47.0
【現状】購買意欲 (当月)	0.9	14.6	71.7	12.7	0.0	49.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.4	25.2	68.9	4.5	0.0	44.1
【見通し】購買意欲 (当月)	0.0	19.5	72.9	7.6	0.0	47.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

2ヵ月連続で改善をみせる

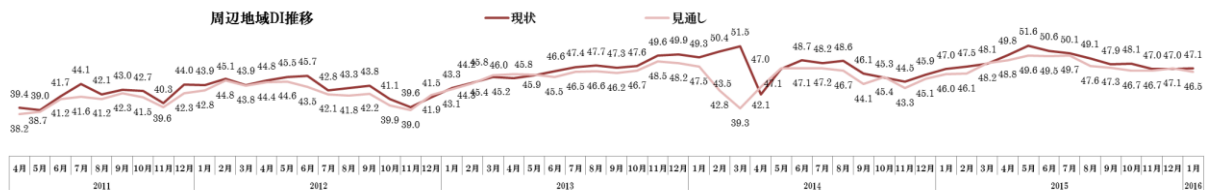
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.1	23.4	69.8	2.7	0.0	42.8
【現状】競合状況 (当月)	2.8	20.3	75.0	1.9	0.0	44.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.1	26.1	68.0	1.8	0.0	41.9
【見通し】競合状況 (当月)	3.3	23.3	71.9	1.4	0.0	42.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通し判断共に前月と変わらず、横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.9	14.9	79.7	4.5	0.0	47.0
【現状】地域景気(当月)	1.0	13.3	81.9	3.8	0.0	47.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.5	14.4	81.5	3.6	0.0	47.1
【見通し】地域景気(当月)	0.0	17.8	78.4	3.8	0.0	46.5

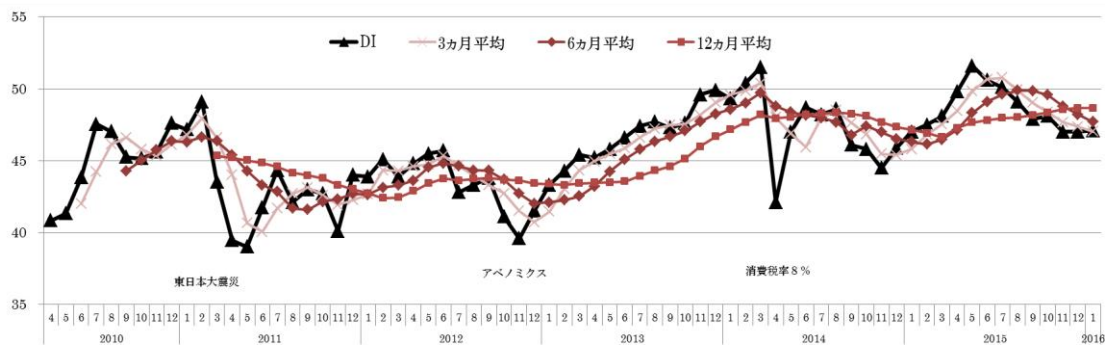


長期傾向 (2010年4月～)

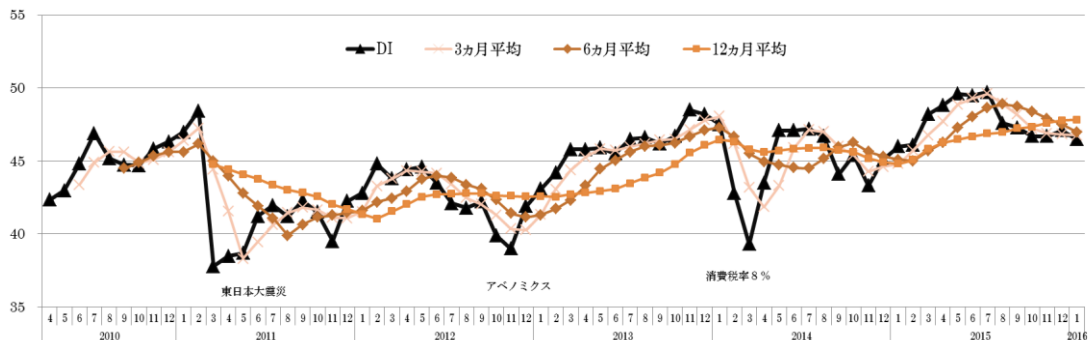
2012年11月以降上昇を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では再び下落となった。消費税率引き上げ後、3ヵ月周期でトレンドが変化し、方向感の見えにくい状況であったが、12月以降は6ヵ月連続の改善となり、2015年5月には調査開始以降で最高水準にまで上昇をみせた。その後6月以降は一転して下落が続いている。直近11月は下落の速度がやや早まったが、12月、1月は2ヵ月連続の横ばい推移で踏みとどまっている。

引き続き12ヵ月平均線のみがわずかにプラスを維持しているものの、他の平均線はマイナス推移に転換し、12ヵ月平均線の下方に位置しており、弱含みな状況であることが顕著になっている。

現状判断 (中長期傾向)



見通し判断 (中長期傾向)



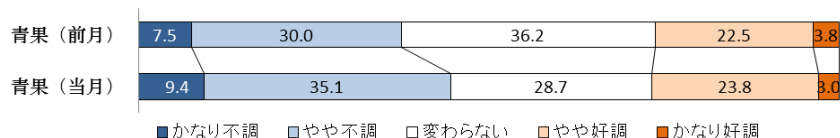
Ⅲ. カテゴリー別動向

カテゴリー別動向 DI による好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

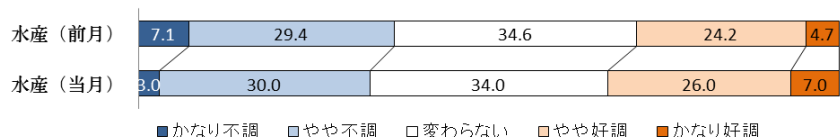
1. 青果 DI：-6.1（やや不調）



前半は暖冬の影響で野菜相場安に加え、気温が高く鍋物商材が不調となり、中旬以降は降雪に伴い相場が高くなり、気温の低下とともに鍋物商材が好調となりました。

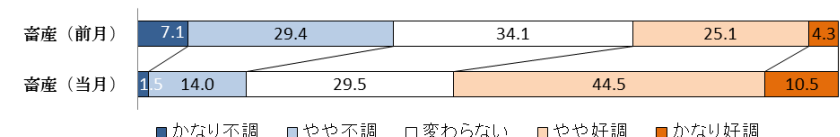
いちごは相場高と入荷不安定のため厳しかったという声が全国的に聞かれ、柑橘類も相場高傾向ではありましたが、好調とのコメントが散見されました。

2. 水産 DI：1.0（やや好調）



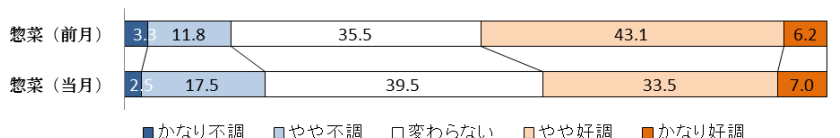
海水温の上昇によるブリの不漁、シケが続く近海魚の水揚げ不良、そして前半は鍋物商材の不調と厳しい月となりましたが、日曜日が一日多いことを追い風に刺身類や塩干物、気温低下後の鍋関連が好調とのコメントがみられました。

3. 畜産 DI：12.1（好調）



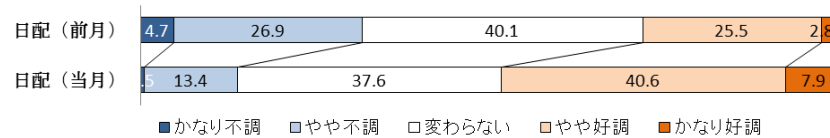
気温低下による季節商材需要の増加を背景に好調となりました。牛肉の相場高が続き、拡売しにくい状況が続く中、豚肉相場の落ち着きから、価格が低下し、好調であったとのコメントが多くみられました。保存が利くことから、降雪予報による買いだめ需要があったことも好調の要因と考えられます。加工肉は、WHOの報道発表の影響が徐々に薄らぎ、回復傾向にあるとのコメントがみられました。

4. 惣菜 DI：6.3（やや好調）



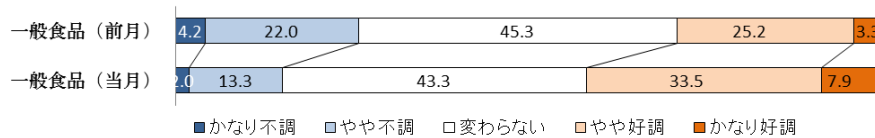
正月商戦が短くなり、年始の寿司などハレの日メニューが伸び悩んだものの、正月明けのヘルシー需要や、春を先取りした、たけのこや菜の花などを使用した弁当・惣菜の展開などにより好調に推移しました。中旬以降は、気温低下により麺や煮物などのホットメニュー、受験生応援のカツなどが好調とのコメントがみられました。

5. 日配DI：10.5（好調）



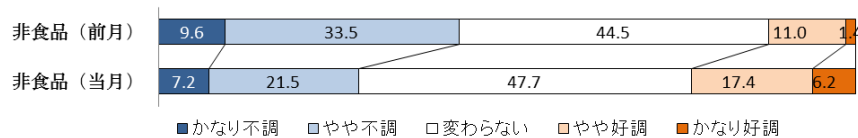
前半は気温が高く、アイスやデザートなどが好調に推移し、気温低下に伴い、豆腐やこんにゃく、麺、練り物などの鍋商材が伸長しました。降雪予報による買いだめも発生し好調でした。インフルエンザ流行の兆しで、機能性ヨーグルトの需要が高いとのコメントがみられました。

6. 一般食品：8.0（やや好調）



前半は気温が高く、鍋つゆやカップ麺などホット商材が伸び悩む一方で、飲料やカレー関連などが支持されました。後半は、降雪予報による買いだめ需要が発生し、米、水、カップ麺、缶詰などが売り上げを好調であったとのコメントがみられました。

7. 非食品DI：-1.5（やや不調）



後半から気温が低下し、衣料、マスク、カイロ、入浴剤、ハンドクリームなど冬物、防寒関連商品が動くようになりました。ドラッグストアやホームセンターとの競合を指摘するコメントが多くみられました。

2016年2月調査（1月実績）キーワードTOP3

1. 日曜日が一日多い
2. 天候要因（中旬以降気温低下）
3. 寒波による買いだめ需要

スーパーマーケット景気動向調査

1月実績速報版集計 213社

12月実績確報版集計 222社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp